

気になる生徒の支援、一緒に考えませんか？

高等学校特別支援チーム

高等学校特別支援チームは、高等学校における特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズや学校のニーズに応じた相談を受けるため、労働・福祉・教育の各機関で構成されたチームです。依頼内容に応じて派遣される各機関の委員が、学校と一緒に対応を考えます。



令和6年度の相談から

相談を受けた生徒の実際

学習面に関すること

- ・文字の読み書きに時間がかかる。書字が困難である。
- ・記名、物の準備等に時間がかかる。
- ・指示理解が難しく、都合の良いように解釈してしまう。

行動面・生活面に関すること

- ・提出期限を守れない。 ・整理整頓が苦手。
- ・落ち着きがない。注意の持続が難しい。
- ・大人数での学校生活に抵抗があり、人と目を合わせられない。
- ・感覚過敏(匂い、音に敏感)がある。 ・急な予定変更に対応できない。

進路に関すること

- ・卒業後の生活についてイメージができず、進路を考えることへの意欲が希薄である。
- ・自己理解の難しさ。



対象となっている生徒の多くは、障害の診断を受けていません。先生達の「気付き」や「心配」から相談につながるケースも多いです。

提案や助言の例・支援の実際

○ユニバーサルデザインを取り入れた支援の提案

- ・授業のめあて、流れを視覚的に示す
- ・教科書のページを板書して伝える
- ・計算の過程でのポイントを色チョークで囲む
- ・ICT機器の活用 等

○個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成支援

- ・目標や手立ての妥当性、本人や保護者の願いの取り入れ方等
- ・計画に基づいた具体的な支援の提案、実施後の評価の仕方

○ケース検討会

- ・授業中の配慮の仕方、SSTの進め方、進路指導における配慮の仕方
- ・医療機関、保護者との連携の在り方

○職員研修支援

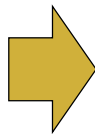
- (研修会のテーマの一例)
- ・「進学校における特別支援・インクルーシブ教育を考える」
- ・「生徒の自己理解につなげる面談の在り方」

実際のケース例 ～書字に困難さのある生徒への支援

学校から高校支援チームへの相談



中学校まで不登校だった生徒。学習に意欲をもてるよう、書字の負担を軽減する支援について知りたい。



- 学校と高校支援チームとのケース検討会(3回)で生徒の実態を整理し、具体的な支援を検討した。本人・保護者との合意形成ののち、全校職員で共通理解を図った。
- タブレットの使用、テスト等の解答用紙のレイアウトの工夫、別室受験等の支援が取られた。
- 対象生徒は分からないところを質問したり、将来の職業の希望を話すなど、前向きな姿が見られるようになった。

高校支援チームを活用した学校からの“声”

- 高校支援チームからの助言内容を職員会議で共有したことで全職員の生徒理解が進み、一貫した対応ができた。
- 個別の教育支援計画を使って保護者面談を進めたことで、面談の内容が整理され、支援の方向性を確認できた。保護者との関係性を築くことにもつながった。
- 継続して支援チームに生徒を見てもらったことで、生徒の変容と一緒に確認するだけでなく、指導・支援を具体的に振り返り、更なる改善につなげることができた。

お問い合わせはこちらへ

県央地区事務局
秋田県立栗田支援学校

TEL 018-828-1162
FAX 018-828-4720

(担当)教頭：齊藤